

狭窄部対策(小田)

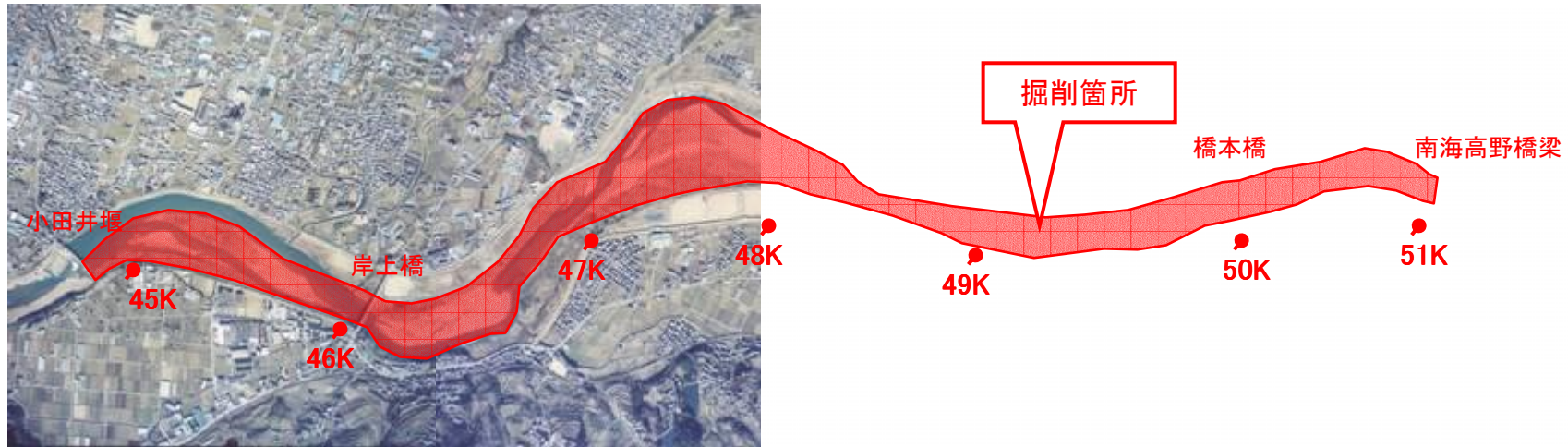


小田井堰

小田狭窄部の対策案

小田井堰

▼改修イメージ



▼流出量と流下能力の比較

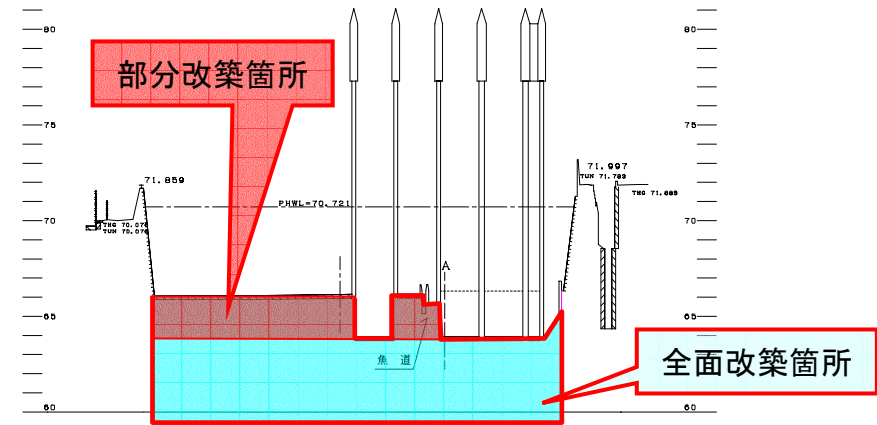
単位: m³/s

小田狭窄部		
流出量		5,840
流下能力	現況河道	5,230
	部分改築	5,840
	全面改築	7,200

▼改修の概要

小田井堰は、部分改築で流下能力不足をカバーできる。
そこで、左岸側固定堰を可動堰に改築すると共に堰上流部の堆積土砂を掘削する対策を考えてみた。

▼横断イメージ



▼改修の課題

- ・井堰の改築には、上流部の堆砂対策として、上流部の掘削が必要である。
- ・環境への対応が必要である。

小田井堰

小田狭窄部周辺の環境

築堤

掘削

狭窄部対策

右岸側は市街地が広がっている



かつらぎ高野山系
県立自然公園

左岸側は丘陵地となっている

小田狭窄部周辺の自然環境

小田井堰

築堤

掘削

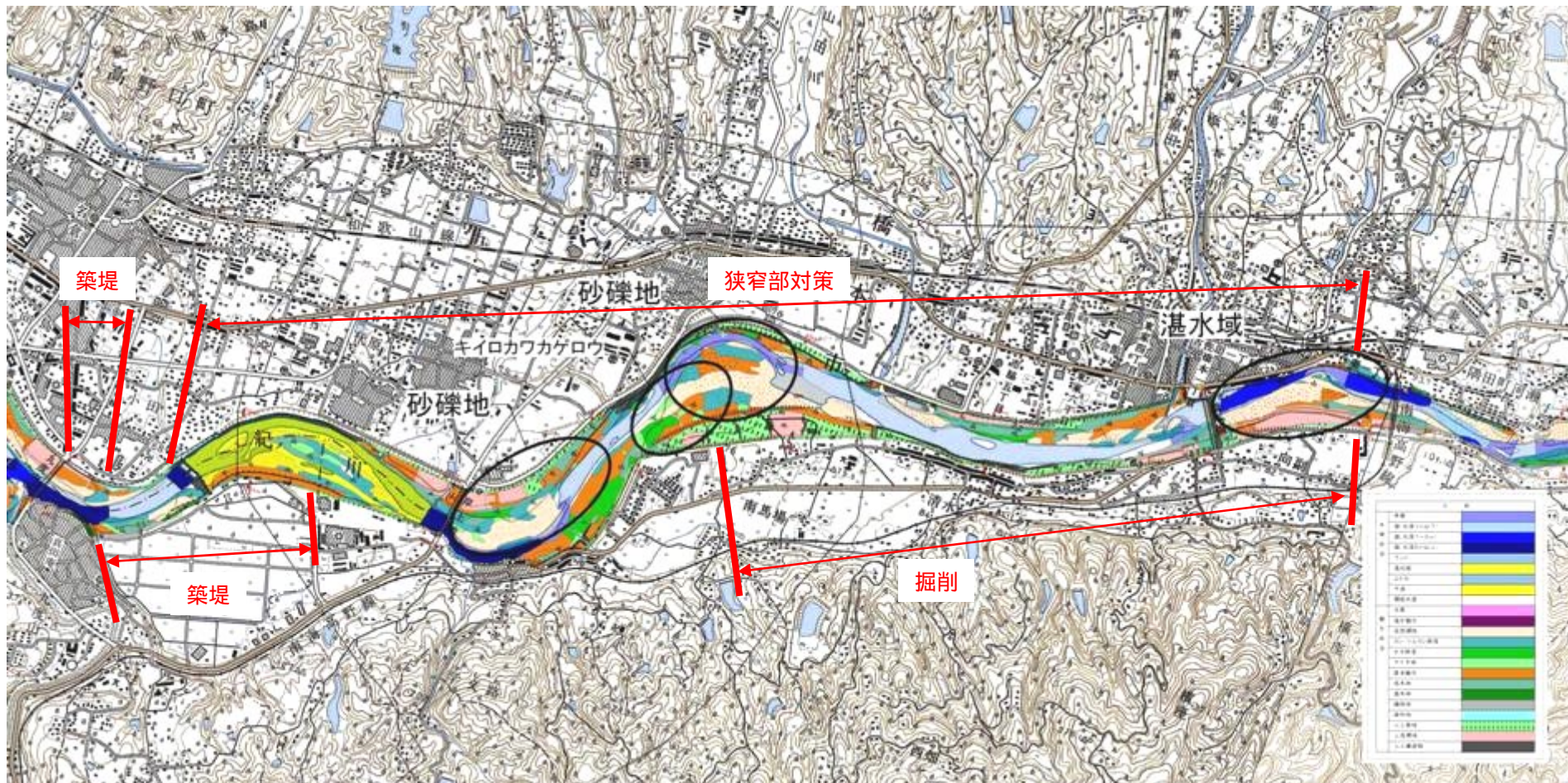
狭窄部対策

【河道内について】

- 河床は、堰下流側は礫、上流側は石となっている。小田井堰下流部は、大きく蛇行して早瀬とM型の堰が交互に見られる。また、ワンドも見られ、生物の重要な生息地となっているものと考えられる。

【河川敷について】

- 46km付近までは、右岸側はグラウンドなどに利用されているほか護岸となっている。
- 右岸側の46kmより上流部は砂礫地が広がっており、カワラサイコやコチドリなどの生育・生息環境となっていることが考えられた。
- 掘削区間の下流側では、タコノアシ(湿地)やカワラサイコ(砂礫地)などの注目すべき植物が確認されている。また、砂礫地はコチドリの生息地となっている可能性もある。
- ヨシ原ではオオヨシキリが生息している。また、橋本橋の下面にはイワツバメの集団繁殖地がある。



昭和34年9月洪水(伊勢湾×1.0)の想定氾濫状況

大滝ダム
2500m³/s一定放流

